

## 〈原 著〉

「医心方」「鍼灸聚英」「鍼灸腧穴学」に於ける  
孔穴主治症の変遷について

明治鍼灸大学・東洋医学基礎教室

高島 文一

要旨：「医心方」は現存する日本最古の医学書であり、丹波康頼が984年に撰述したとされている。全30巻でその第2巻が鍼灸篇となっている。その中の孔穴主治法第一を見ると合穴660穴、明堂経穴649穴、諸家方穴11と書かれている。大部分が「黄帝内経明堂経」から引用されたものであることが推定される。「鍼灸聚英」は1529年明の高武が編述したが、宋以後の五行論的要素が加わったものと考えられる。「鍼灸腧穴学」は上海中医学院で編述したもので古来のものと現代医学の要素を加味したものと考えられる。これらの書物の中から1.頭痛、2.心痛、3.腰痛について主治穴を調査し、その変遷について考察を行った。

Concerning Principle Treatment of Meridian Points as Outlined in the  
Ishinpo, Zhenjin Juying and Zhenjin Shuxue Xue

Bunichi TAKASHIMA

*Department of Oriental Medicine, Meiji College of Oriental Medicine*

Summary: The "Ishinpo" is well known at present as the oldest medical textbook in Japan. It is presumed that its most parts were quoted from Chinese medical books and described by Yasuyori Tanba in 984 A.D. The "Ishinpo" consists of 30 chapters and in the chapter on acupuncture and moxibustion 660 meridian points are mentioned and "Huangdi Neijing Mingtang" 644 points and other 11 points are described. The "Zhenjiu Juying" was edited by Gao Wu of the Ming dynasty in 1529. The "Zhenjiu Shuxue Xue" was published by Shanghai college of the traditional Chinese medicine recently. In this paper the author has tried to analyse the meridian points for treatment of headache, heartache and lumbago in these three books.

Key Words: 孔穴 Meridian point, 医心方 Ishinpo, 鍼灸聚英 Zhenjiu Juying, 鍼灸腧穴学 Zhenjiu Shuxue Xue.

## I 緒 言

「医心方」は現存する日本最古の医学全書である。984年丹波康頼により撰述され、円融天皇に献上されて長く宮中に保管された。

16世紀になって正親町天皇はこれを御典医半井瑞策に下賜された。半井家は和氣清麻呂の子孫であり、明治に至るまで丹波和氣両家が日本の医学を支配したといっても過言ではない。1850年代に

至り当時最高の医学研究所であった医学館に3ヶ月間貸し出され、丹波氏の子孫である多紀一門により筆写された以外半井家に秘蔵された権威ある書物である。1983年文化庁が買い上げ国宝となった。全30巻より成り第2巻が鍼灸篇である。この中の孔穴主治法第一には合660穴、明堂経穴649、諸家方穴11と書かれている。この場合の明堂経は楊上善が註釈をほどこした「黄帝内経明堂経」を

さすものと推定されている。諸家方11穴については、「小品方」「千金方」「扁鹊鍼灸経」「華佗鍼灸経」等から引用したものと思われる。中矩、膝日は華佗の伝に出づ、膏肓輸は千金方より出づと書かれているが、その他の穴については不明である。「医心方」の内容を調査することは唐以前の「黄帝内経明堂経」を調査することになると考えられる。

「鍼灸聚英」は明の高武が「1529年編述したものであるが、500年を経て良く整備された経絡経穴が記載されている。

「鍼灸腧穴学」は現代医学の要素を加味したものとなってくるものと思われる。

この3冊の書物から1.頭痛、2.心痛、3.腰痛についての主治穴を選び出し、比較対照して変遷の状態を分析探求しようとした。

## II 方 法

安政刊本「医心方」第二巻鍼灸篇の孔穴主治法の中から1.頭痛、2.心痛、3.腰痛に効果ありと記載された経穴を選び出した。

つづいて「鍼灸聚英」巻1の上及び下の経絡経穴の中から及び「鍼灸腧穴学」の経絡経穴篇の中から、1.頭痛、2.心痛、3.腰痛を主治症とする経穴を選び出し「医心方」の経穴と比較対照した。記載の方法は別表のように上段に「医心方」「鍼灸聚英」「鍼灸腧穴学」を並列し、1.頭痛、2.心痛、3.腰痛の順序に、経絡毎に経穴名を書き、書中に記載のあるものを+、記載のないものを-と記し、+については表現された文句も併記した。

身体部位については「医心方」の様式に従い、頭部、面部、頸部、肩部、手部、背部、胸部、腹部、足部の順に綱目をつくり、諸経絡は現代の鍼灸腧穴学の記載様式に従って、督脈、任脈、肺経、心経、心包経、大腸経、小腸経、三焦経、胃経、膀胱経、胆経、脾経、腎経、肝経の順に分類記載した。

## III 結果ならびに考察

古今を通じて一致する主治穴は次のようであっ

た。

### 1. 頭 痛

頭部では督脈の額会、百会、風府、後頂、胆経の前額側方の頭維、額厭、懸顛、側頭部の天衝、目窓、承靈、三焦経の耳後の顛息、面部では晴明、糸竹空、頸部で天柱、風池、手部では肺経の孔最、魚際、心経の青靈、通里、心包経の太陵、大腸経の合谷、陽谿、温溜、後谿、小海、三焦経の関衝、液門、中渚、消灤、と手関節周辺に多い。

背部では督脈の命門、膀胱経の大杼、風門、胆俞、三焦俞、腎俞と腰部の腎、副腎に近い所が取穴されている。

腹部では任脈の関元のみで生殖器に関係あるものと思われる。

足部は胃経の解谿、膀胱経の飛陽、崑崙、京骨、通谷、至陰、胆経の外丘、竅陰と足関節周辺に多い。

### 2. 心 痛

手部が最も多く肺経の俠白、尺沢、心経の極泉、靈道、陰郄、少衝、心包経の出沢、郄門、内関、太陵、中衝、小腸経の小沢、三焦経の天井、が取穴される。

胸部は天突、臑中、腹部は任脈の中極、建里、中脘、上脘、巨闕、鳩尾、脾経の腹結、肝経の期門、章門と心窩部に多い。

足部は脾経の大都のみである。脾胃の痛みを伴う場合に取穴する。「医心方」には暴洩心痛「鍼灸聚英」「鍼灸腧穴学」には胃心痛に対する要穴であると記載されている。

### 3. 腰 痛

背部に集中していることは当然である。

督脈の長強、腰俞、命門、膀胱経の大杼、肺俞、腎俞、大腸俞、中膂内俞、白環俞、上髎、次髎、中髎、下髎、志室、胞育、秩辺がある。腎俞は「医心方」で腰痛熱痿、「鍼灸聚英」で距坐而腰痛、「鍼灸腧穴学」で腰痛膝冷と適応が複雑である。腹部で胃経の水道、氣衝、胆経の京門、居髎、肝経の章門がある。

水道は「医心方」で腰背中痛、「鍼灸聚英」で月水至則腰背痛、「鍼灸腧穴学」で月経至則腰脊

表1 頭 痛

身体部位	經絡名	經穴名	主 治 症				
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 腧 穴 学		
頭 部	腎 脈	額 会	風眩頭痛	腦疼如破	頭痛眩暈		
		百 会	頂 痛	頭痛目眩	頭 痛		
		後 頂	顛上痛	額顛上痛	頭痛眩		
		強 間	(-)	頭痛目眩	頭痛眩		
		腦 戶	頭重項痛	頭重腫痛	頭 重		
		風 府	頭痛項急	惡寒頭痛	惡寒頭痛		
		瘕 門	項 強	頭 痛	後頭痛		
		三焦經	顛 息	頭脇痛	身熱頭痛	身熱頭痛	
			耳 門	頭頰痛	(-)	頭頰痛	
			和 膠	頭重頰痛	頭重痛	頭重痛	
			胃 經	頭 維	頭痛如破	頭 痛	惡寒頭痛
				膀胱經	五 處	頭 痛	頭風熱
	承 光				風眩頭痛	風眩頭痛	(-)
	胆 經	通 天	頭痛項痛	項痛重	頭項痛重		
		絡 却	腦風眩頭痛	(-)	(-)		
		玉 枕	頭項謄風	頭項痛	頭項痛		
		頷 厭	頭痛引目外眦	偏頭痛	頭痛身熱		
		懸 顛	頭 痛	頭 痛	偏頭痛		
		山 髻	頸頷搖滿引齒牙	腦兩角痛	頭痛連齒		
		卒 谷	兩角眩痛	兩角強痛	偏頭痛		
		天 衝	頭 痛	頭 痛	頭 痛		
		浮 白	(-)	(-)	頭風痛		
		竅 陰	項痺痛引頸	頭項頰痛	頭項痛		
		完 骨	風頭耳後痛	頭風耳後痛	頭痛煩心		
面 部		腎 脈	上 星	頭痛引頰	頭 風	頭 風	
	神 庭		寒熱頭痛	頭風目眩	頭眩痛		
	水 溝		寒熱頭痛	(-)	寒熱頭痛		
	三焦經		絲 竹	頭 痛	目眩頭痛	偏正頭痛	
			胃 經	(-)	頭 痛	頭 痛	
				四 白	風寒頭痛	憎寒頭痛	憎寒頭痛
胆 經	睛 明	風頭痛	(-)	寒熱頭痛			
	攢 竹	頭痛身熱	頭項痛	頭痛身熱			
	曲 差	頭痛目眩	(-)	頭痛目眩			
	本 神	頭目瞳子痛	(-)	頭 痛			
	小腸經	天 窓	(-)	(-)	頭 痛		
		天 牖	頭頰痛	頭 風	頭頰痛		
頸 部	三焦經	人 迎	頭痛胸滿	(-)	頭 痛		
		胃 經					

肩 部 手 部	膀胱経	天柱	眩頭痛	頭旋胸痛	頭眩痛重
	胆経	風池	眩頭痛	偏正頭痛	頭暈目眩
	胆経	肩井	(-)	頭項痛	頭項強
	肺経	孔最	頭痛振寒	頭痛	厥頭痛
		列缺	(-)	(-)	頭痛
		太淵	(-)	(-)	頭痛
		魚際	身熱頭痛	身熱頭痛	眩暈頭痛
	心経	青靈	頭痛振寒	頭痛振寒	頭痛振寒
		少海	(-)	腦風頭痛	頭痛目眩
		通里	頭痛少氣	目眩頭痛	頭痛眩暈
	陰郛	(-)	(-)	頭痛眩暈	
	神明	(-)	(-)	頭痛	
	心包経	大陵	頭痛如破	頭痛如破	
	大腸経	中衝	(-)	頭痛	
		二間	(-)	頭痛	
		合谷	頭齒痛	頭痛	
		陽谿	厥逆頭痛	痰逆頭痛	
		温溜	寒熱頭痛	寒熱頭痛	
		下廉	(-)	(-)	
		上廉	(-)	腦風頭痛	
	小腸経	少澤	頭痛	頭痛	
		前谷	頭頸急痛	(-)	
		後谿	眩頭痛	頭項強不得回顧	
		腕骨	(-)	痰瘡頭痛	
		陽谷	(-)	(-)	
		支正	頭眩痛	(-)	
		小海	眩頭痛	風眩頸項痛	
	三焦経	関衝	頭眩額痛	頭痛	
		液門	頭痛	頭痛	
		中渚	頭痛	目眩頭痛	
		外关	(-)	(-)	
		天井	振寒熱頸項肩背痛	振寒頸項痛	
		清冷淵	頭痛振寒	(-)	
		消灤	熱痺頭痛	頭痛	
背 部	腎脈	命門	頭痛如破	頭痛如破	頭痛
		神道	(-)	頭痛	身熱頭痛
	膀胱経	大杼	頭痛	頭風振寒	頭痛振寒
		風門	風眩頭痛	頭項強	頭痛
		肝俞	目眩頭痛	肩頭痛	(-)
		胆俞	(-)	頭痛	頭痛振寒
		三焦俞	頭痛食欲不下	傷寒頭痛	目眩頭痛
		腎俞	頭痛足寒	頭重身熱	頭痛
		小腸俞	(-)	頭痛	(-)
		諱諱	(-)	小兒食時頭痛	(-)

胸部	任脈	天突	頭痛	(-)	頭痛面皮赤熱
腹部	任脈	闕元	頭眩痛	風眩頭痛	腎闕頭痛
		上腕	頭眩痛	(-)	頭痛
足部	心包經	鳩尾	(-)	偏頭痛引目外眦	偏頭痛
		天池	(-)	頭痛	頭痛
	胃經	豐隆	(-)	風痰頭痛	頭痛
		解谿	頭眩面目赤	頭痛顛疾	頭痛
	膀胱經	承筋	頭眩痛	(-)	頭眩痛
		飛陽	頭眩痛	突則鼻室頭背痛	頭背痛
		附陽	頭重	頭重頤痛	頭痛
		崑崙	項如振	頭痛肩背拘急	頭痛
		中脈	(-)	(-)	偏正頭痛
		束骨	頭重	頭痛如破	頭項痛
通谷		(-)	頭顛項痛	頭痛目眩	
至陰		項痛振寒	頭重目眩	頭痛目眩	
胆經	外丘	頭重鼻衄項痛	鼻塞頭重	頭項痛	
	陽輔	脇頭痛項上惡	頸項痛	頭痛項強	
	陰谿	(-)	頭角頰痛	偏頭痛	
肝經	太衝	頭痛	頭痛心煩	頭痛心煩	
	敦	(-)	陰頭中痛	陰頭痛	

表 2 心 痛

身体部位	經絡名	經穴名	主 治 症		
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 驗 穴 学
頭部	胆經	臨泣	(-)	心痛	心痛不得反側
手部	肺經	俠白	心痛	心痛頭氣	心痛
		尺澤	心痛	心痛	心痛
		經渠	(-)	心痛嘔吐	心痛欲嘔
		太淵	(-)	心痛脈墻	心痛
		魚際	心痛	心痺悲恐	心痛
	心經	極泉	心痛	心痛	心痛
		少海	(-)	心疼	心痛
		靈道	悲恐心痛	心痛	心痛
		通里	心痛	(-)	心痛
		陰郄	心痛	心痛	心痛驚悸
	心包經	神門	(-)	心痛數噫	(-)
		少衝	上氣心痛	厥心痛	心痛
		天泉	(-)	心痛	心痛
		曲澤	心痛	心痛善驚	心痛善驚
		郄門	心痛	心痛嘔噦	心痛嘔噦
	間使	卒心痛	卒心痛	心痛	
	內關	心暴痛	突則心暴痛	心痛	

背 部	大腸経 小腸経	太 陵	心 痛	心痛掌熱	心 痛	
		中 宮	(-)	(-)	心 痛	
		合 衝	心痛身熱如火	心痛煩滿	心 痛	
	三焦経	少 谷	(-)	(-)	心 痛	
		後 沢	心痛口乾	口乾心煩	心 痛	
		支 谿	(-)	(-)	心痛煩滿	
	腎 脈 膀胱経	天 井	(-)	卒心痛	卒心痛	
		長 強	心 痛	胸痛	胸痺心痛	
		筋 縮	(-)	(-)	(-)	
		厥陰俞	(-)	心 痛	(-)	
心俞		心痛背相引	心痛	心痛留結		
胸 部	任 脈	膈俞	(-)	心中風候	寒熱心痛	
		魂門	(-)	心痛周痺	(-)	
		中 庭	(-)	胸痛連心痛	胸背心痛	
	任 脈	腕中	心痛滿	(-)	心 痛	
		玉堂	(-)	胸痛	卒痛煩心	
		天 突	心 痛	胸膈疼痛	(-)	
	腹 部	任 脈	中 極	奔豚上搶心	奔豚搶心	心煩痛
			氣海	(-)	卒心痛	心 痛
			建里	心 痛	心 痛	心 痛
			中脘	心 痛	心 痛	心 痛
上脘			心 痛	卒心痛	卒心痛	
胃 経 脾 経 肝 経		巨 闕	心痛煩心	数腫心痛	蛔虫心痛	
		鳩尾	心腹痛心背相引而痛	心中氣因	心絞痛	
		不容	心痛與背相引	心痛與背相引	(-)	
		不 衝	(-)	上搶心痛不得息	心痛不得息	
		腹 門	搶 心	心 痛	上衝搶心	
足 部	胃 経 膀胱経	章 門	心痛腰痛身黄	心痛而呕	心痛而呕	
		期 門	心切痛	傷寒心切痛	虫心痛	
		三 里	(-)	卒心痛	(-)	
	胆 経 脾 経	崑崙	(-)	心痛與背相接	(-)	
		京 骨	(-)	心 痛	(-)	
		臨 泣	(-)	心 痛	胸痺心痛	
	腎 経	大 都	暴洩心痛	胃心痛	胃心痛	
		太白	(-)	胃心痛	胃心痛	
		湧 泉	(-)	煩心心痛	(-)	
		然 谷	(-)	卒心痛	(-)	
肝 経	太 谿	(-)	心痛如錐刺	(-)		
	太 敦	(-)	心痛如錐刺	心 疼		
	太 衝	心 痛	(-)	卒心痛		
			心痛脈弦	(-)		

表3 腰 痛

身体部位	経絡名	経穴名	主 治 症			
			医 心 方	鍼 灸 聚 英	鍼 灸 腧 穴 学	
頸 部	胃 經 胆 經	人 迎	(-)	(-)	耳鳴腰痛	
		風 池	(-)	腰背俱疼	腰背痛	
肩 部	胆 經	肩 井	(-)	腎虚腰痛	(-)	
手 部	肺 經 大腸經	尺 沢	(-)	腰脊強痛	(-)	
		合 谷	(-)	腰脊内引痛	(-)	
		手三里	腰 痛	(-)	腰背痛	
		腕 骨	(-)	(-)	腰 痛	
背 部	小腸經	小 海	腰 痛	(-)	(-)	
		督 脈	身 柱	(-)	腰脊痛	腰脊強痛
			至 陽	(-)	腰脊痛	(-)
			脊 中	腰脊強不得俛仰	(-)	腰脊強
			長 強	腰 痛	腰脊痛	腰痛脊強
			腰 俞	腰痛引小腹	腰脊痛	腰脊強痛
			陽 關	(-)	(-)	腰 痛
			命 門	裏急腰腹相引痛	腰腹相引痛	腰腹相引痛
			懸 枢	(-)	腰脊強不得屈伸	腰脊強痛
			大 杼	腰脊痛	腰脊痛	腰脊痛
	肺 俞		背強日反	腰脊強痛	腰脊痛	
	膀胱經	三焦俞	(-)	腰脊強不得俛仰	腰背拘急痛	
		腎 俞	腰痛熱瘞	踞坐而腰痛	腰痛膝冷	
		大腸俞	腰 痛	腰 痛	腰脊強痛	
		膀胱俞	(-)	(-)	腰背痛	
		中膻内俞	腰痛寒熱瘞	腰脊強不得俛仰	腰痛脊強	
		白 環 俞	腰脊痛	腰脊痛	腰脊急痛	
		上 髎 俞	腰痛而清	腰 痛	腰膝冷痛	
		次 髎 俞	腰痛快快不可俛仰	腰痛不得轉搖	腰脊痛	
		中 髎 俞	腰 痛	腰 痛	腰 痛	
下 髎 俞		腰痛不可反側	腰不得轉筋引卵	腰 痛		
胸 部	胃 經	神 堂	(-)	腰背脊強急	腰背脊強不可俯仰	
		志 室	腰痛脊急	背痛腰脊強急	腰脊強痛	
		胞 背	背脊痛	腰脊急痛	腰脊痛	
		秩 邊	腰痛骶寒	腰 痛	腰骶痛	
		缺 盆	(-)	(-)	腰痛不可俯仰	
腹 部	任 脈 胃 經 胆 經	氣 海	(-)	内着腰疼	腰 痛	
		水 道	腰背中痛	月水至則腰背痛	月經至則腰脊痛	
		氣 衝	腰痛陰痿	腰痛不得俛仰	腰痛控辜	
		京 門	腰痛寒熱	腰痛不得俛仰久立	腰 痛	
		五 枢	(-)	(-)	腰背痛	

足部	腎経	維道	(-)	(-)	腰腿痛
		居膠	腰痛引少腹	腰引小腹痛	腰痛引小腹痛
		氣穴	腰脊痛	(-)	腰脊痛
	肝経	中注	(-)	泄氣上下引腰脊痛	腰腹疼痛
		章門	腰痛身黄	腰痛不得転側	腰背冷痛
	膀胱経	髀関	(-)	腰痛	腰痛膝寒
		伏兔	(-)	(-)	腰膝痛如水
		梁丘	(-)	膝脚腰痛	腰脚痛
		三里	(-)	腰痛不得俛仰	腰痛不可以顧
		下巨虚	(-)	胸脇小腹控舉而痛	腰背控舉而痛
		殷門	腰痛俛不得仰	腰脊不可俛仰	腰痛強直而痛不可俯仰
		委中	腰痛	腰脊痛	腰痛引腹
		委中	腰痛俠脊至	腰重不能举体	腰脊強痛
		合陽	腰脊痛	腰脊強引腹痛	腰脊痛腰膝痠痛
		承筋	大腹腰脊背寒痺	腰背拘急	腰背拘急
		承山	腰背痛	(-)	腰背脚膕痠重
		飛陽	(-)	(-)	腰膝痠痛無力
	胆経	附陽	(-)	腰痛不能久立	腰股痛
		崑崙	腰痛不可俛仰	欬喘滿腰脊内引痛	腰尻痛
		僕参	腰痛	(-)	腰痛
		中脈	腰痛不能举足	腰脚痛	腰痛
		京骨	(-)	腰痛不可屈伸	腰髀痛
		環跳	髀枢中痛腰脇	腰胯痛蹇	腰胯痛
陽輔		腰痛如小錘	腰溶溶如坐水中	腰痛	
懸鐘		(-)	(-)	腰痛	
地五会		(-)	(-)	腰痛	
腎経		湧泉	(-)	腰痛	腰痛
		太谿	(-)	(-)	腰脊痛
		太鐘	腰背痛	腰脊痛	腰痛
	復溜	腰痛引脊内廉	腰脊内引痛	腰脊痛	
	行間	腰腹痛	腰疼不可俛仰	膝腫腰痛	
	太衝	腰痛	腰引小腹痛	腰痛	
肝経	中封	(-)	腰中痛	腰痛	
	蠡溝	陰跳腰痛挺長	(-)	腰痛	

痛と月経時の腰痛の要穴であると記載している。

氣衝は「医心方」で腰痛陰痿、「鍼灸聚英」で腰痛不得俛仰、「鍼灸腧穴学」で腰痛控舉と記載している。

章門は「医心方」で腰痛身黄、「鍼灸聚英」で腰痛不得転側、「鍼灸腧穴学」で腰背冷痛と黄疸、

肝腫と関係のある腰痛の主治穴であることをあらわしている。

足部では膀胱経の殷門、委陽、委中、合陽、承筋、崑崙、申脈、胆経の環跳、陽輔、腎経の大鐘、復溜、肝経の行間、太衝がある。

崑崙は「医心方」で腰痛不可俛仰、「鍼灸聚英」

で欬喘満腰脊内引痛、「鍼灸腧穴学」で腰尻痛と記載されている。

以上が三書に共痛して記載されたものであり古今を通じて要穴と考えられる。

頭痛については頭部に多いのは当然であるが次いで手部に多く手部の刺激が頭部に影響することの多いことを示している。足部の膀胱経、胆経の経穴の多いのは頭部に至る経絡の流注と一致する。

心痛については、手部の肺経、心経、心包経の経穴が最も多く、心臓からの交感神経を介しての投影が考えられる。胸部、背部は案外に少く腹部は心窩部のものが多い。これも腹腔神経叢を通じての影響が考えられる。足部では脾経の大都のみ、胃腸症状を伴う心痛の要穴として挙げられている。

腰痛については圧倒的に背腰部の経穴が多く、足部の膀胱経がこれに次いでいる。これはデルマトームの関係から了解できる所である。

引用文献については、「医心方」第二卷鍼灸篇孔穴主治法第一合660穴、明堂経穴619、諸家方穴11と記載されており、この明堂経は「黄帝内経明堂経」であると推定されている。

「鍼灸聚英」では難経、素問、子午経、銅人鍼灸図、明堂鍼灸図、存真図、千金方、千金翼方、外台秘要、金蘭循経、濟生授萃、鍼経指南、鍼灸雑説、資生経、十四経発揮が文献として挙げられている。

「鍼灸腧穴学」は文献は挙げられていないが、従来のある文献から適宜選択されたものと思われる。

古今を通じて共通の経穴は頭痛については63穴、心痛については28穴、腰痛については34穴である。

「医心方」<sup>5)7)</sup>は頭痛76穴、心痛32穴、腰痛41穴。

「鍼灸聚英」では頭痛77穴、心痛50穴、腰痛51穴。

「鍼灸腧穴学」では頭痛100穴、心痛47穴、腰痛66穴であり増加した経穴は主として手部、足部である。

以上より見ると主治穴は、古来よりの経験が集積されたと見られる「黄帝内経明堂経」を原型と

して現代に至るまで大差はないものと思われる。

「鍼灸聚英」は1529年明の高武により編述されたが、1026年王維一が「銅人腧穴鍼灸図経」を完成しているので、経絡に沿った取穴が手足部で増加している。古来のものに否定的の立場を取るものも少しは見られる。「鍼灸腧穴学」は上海中医学院において編述したもので、あらゆる書物を調査してその中から選んでいるものと思われる。手足部の取穴の増加は主として経絡に沿って増加したものが多く、現在頭痛に繁用される列缺はこの書にはじめて出てくる経穴である。

#### IV ま と め

984年丹波康頼が撰述した「医心方」第二卷鍼灸篇の孔穴主治法には660穴が記載され、この中649穴は明堂経から引用し、他の11穴は、<sup>1)8)</sup>「華佗鍼灸経」から中矩一穴、膝目二穴、「小品方」から曲沢二穴、「千金方」から脊背二穴、風市二穴他が引用されている。この明堂経は楊上善が註をほどこした<sup>2)</sup>「黄帝内経明堂経」と推定される。

「鍼灸聚英」<sup>1)</sup>は1529年明の高武が編述したが、既に1029年王維一が「銅人腧穴鍼灸図経」を完成しており、経絡が整備されてきている。

「鍼灸腧穴学」<sup>3)</sup>は上海中医学院に於いて1960年代に編述されたものであるが、あらゆる古典から選びだしたものに新しく実験により発見された新穴が加わっている。

以上の三書から1.頭痛、2.心痛、3.腰痛についての主治穴を選び出し比較対照した。

古今を通じて一致するものは頭痛63穴、心痛28穴、腰痛34穴であった。

「医心方」は経絡の要素が少く、<sup>6)</sup>デルマトームに基くもの多く、頭痛76穴、心痛32穴、腰痛41穴であり、「鍼灸聚英」では経絡に沿った取穴が増加し、頭痛77穴、心痛50穴、腰痛51穴であり、「鍼灸腧穴学」では手足部の経穴が更に増加して頭痛100穴、心痛47穴、腰痛66穴となっている。

古今を通じて共通の経穴は今後とも鍼灸治療上、重視すべきものと思われる。

終りにのぞみ資料収集に協力いただいた本学助手・出野陽二，専攻科学生・新田朗，山本祐司，坂東康裕の諸氏に深甚の謝意を表するものである。

#### 文 献

- 1) 赤堀 昭：「医心方」に引用された医書．漢方研究：343，1984．
- 2) 篠原孝市：「黄帝内经明堂」総説．東洋医学善本叢書，8：153．
- 3) 上海中医学院編：鍼灸腧穴学．劭華文化服務社：1968．
- 4) 高 武：鍼灸聚英．香港広智書局：1970．
- 5) 高島文一他：「医心方」第二卷鍼灸篇．至文堂：1982．
- 6) 高島文一：経絡と自律神経．日本鍼灸治療学会誌．27(2)：267，1978．
- 7) 高島文一：「医心方」第二卷鍼灸篇に記載された主治症の現代医学的解釈．日本東洋医学雑誌．34(4)：9．
- 8) 馬繼興：「医心方」中的古医学文献初探．日本医史学雑誌．31(3)：30．